

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年1月12日

事業所名 てくてく教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	段差があるところはすのこで対応している。	身体的に配慮が必要な子どもの利用がある場合は、バリアフリー化への見直し修繕をしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		保育後に全職員で保育の振り返りをし、共通理解を図ることができている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		結果を検討し、改善策を考えて対応できるように努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		年1回第三者による外部評価を実施している。	運営評価委員の評価に基づき、助言を頂いたことを職員間で検討し改善に繋げている。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンライン研修会の参加や療育支援事業を利用して研修会を実施している。	オンライン研修会は、全職員で参加できる機会が多く共通理解ができるので積極的に参加していきたい。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		相談支援専門員との連携を取りながら、支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担任を主としてチームで話し合いながら、プログラムの立案をしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの発達段階や状態に合わせてプログラムを立案している。	研修会で学んだ活動等を取り入れて、固定化しないように実践する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動が苦手な子どもに対し、職員と一緒に活動し、参加しやすい環境を作っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		色々な場面を予測して、対応策を職員間で打ち合わせをし、ひとり人が安心して過ごせるようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		保育後に職員同士で支援の振り返りをしながら、共通理解を図っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個人記録を記入し反省や改善に繋げられるようにしている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		相談支援専門員や保護者との中間・終期モニタリングを実施することで、計画の見直しができる。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校の行事予定表を参考にしながら、活動の調整等を行っている。	学校との連絡会を実施し、情報を共有しながら支援を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		該当なし		医療的ケア児が入所する場合は、看護師の配置や医師との連携が必要になるので検討課題になります。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			連絡会を実施し、情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		該当なし		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	オンライン研修の参加や療育支援事業を利用して研修会を実施している。		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	児童クラブの子ども達と一緒に遊ぶ機会がある。また年一回、合同避難訓練も実施している。		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		今後、地域自立支援協議会等が実施された時は、積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時や連絡帳、モニタリング等で子どもの様子や状況を伝えている。		
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		ペアレント・トレーニングを行える職員がいないので、保健師と連携を取りながら実施できるようにしていきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	利用開始時に説明を行っている。	変更があった場合は随時、説明を行うようにする。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	連絡帳や送迎時等を利用し、保護者からの相談に応じて助言や支援を行っている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	父母の会はないが、懇談会を開き保護者間で話しをする場を設けている。	保護者同士が十分な話しができて、充実できるような懇談会ができるように考慮していきたい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月、各クラスの活動予定表やてくてく教室の活動内容を掲載した「てくてく便り」を発行している。		
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	連絡帳や送迎時等を利用し、保護者からの相談に応じて助言や支援を行っている。		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		住民に事業所のことを知ってもらうことは必要だと思う。今後、必要かどうか検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		各クラスで避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		マニュアルの読み合わせや、研修の機会を確保したり、職員間で共通理解を図った。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			該当なし
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			該当なし
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	ヒヤリハット事例集は作成している。職員間で共有ができていないので、記載の仕方等、しっかり共有できるようにしていきたい。